釧路川流域委員会（第 12 回）議事要旨

■日時： 令和５年１月２３日（月）１５：００～１７：００
■開催場所：釧路地方合同庁舎５Ｆ共用第１会議室
■出席者： 早川委員長、中村副委員長、川尻委員、神田委員、鈴木委員、近藤委員、照井委員（以上７名）※委員長、副委員長以降の順は五十音順
（欠席者：金子委員）
■議題 １．前回の流域委員会の意見について
２．釧路川水系河川整備計画［変更］（原案）について

■議事要旨

１．前回の流域委員会の意見について
２．釧路川水系河川整備計画［変更］（原案）について

【委員長】
・整備計画変更後の対象期間は概ね３０年ということだが、開始年は変更後からなのか、前回から延長となるのか。
【事務局】
・整備計画変更後から、概ね３０年を想定している。

【委員】
・堤防の地震・津波対策について追記されているが、具体的にはどのようなことを実施する想定なのか。また、現状の取組も教えて欲しい。
【事務局】
・地震・津波対策は主に新釧路川が対象となる。新釧路川の地震・津波対策は終了しているが、今後、計画が見直されることも考えられるため、必要に応じて地震津波対策を実施する旨を追記した。
【委員】
・地震後の津波への対応や、地震後の堤防の機能が 100%発揮されるかについて、現在は明らかではない中で整備を進めているところである。新釧路川は 5 割堤で整備されているため比較的安心であるが、地震後に津波が来た場合どこで切れるかわからないため、必要な対策の調査・検討は引き続きお願いしたい。

【委員】
・河川の維持管理において、DX を進めていくとあるが、災害時の巡視体制に UAV を使用

することを記載してはどうか。

【事務局】

・災害時に実施する場合も想定されるため、追記する方向で検討する。

【委員】

・維持管理体制のPDCAサイクルのイメージ図の中に、診断という記載が無いが、診断は行わないのか。

【事務局】

・PとDの間に状態把握や分析評価があるが、その際に横断的連絡調整会議というものを行い、状況把握や診断を加えた評価を行っている。

【委員】

・緊急速報メールによるプッシュ型配信は、河川管理者として今後実施していくのか。

【事務局】

・河川管理者として既に緊急速報メールによるプッシュ型配信を行っている。自治体からは避難情報の緊急速報メールが配信されるが、河川管理者からは氾濫危険情報や氾濫発生情報などの洪水情報を配信している。

【委員】

・受け手が混乱しないよう、情報の内容等については留意が必要である。

【委員】

・中流部での洪水は、川の出口である海の対策を確実に実施すれば生じないのではないか。漁業者は昭和初期にサケが産卵する場所を作ったが、そのころより洪水が増え、ウライが埋まってしまった。100mほどあった河口幅が今は20m程度しかなく、それだけ水が河口に出てきていない。それが中流部であふれる原因ではないのか。

【委員長】

・釧路湿原で貯留されるため、洪水時に河口に出てくる水量が少なくなると思われる。

【事務局】

・標茶と河口の間の釧路湿原に水が溜まって、ゆっくり出てくる。また、昔と比べて水が出にくくなったのは、樹木や土砂堆積の影響もあるかもしれないので、対応していきたい。

【委員】

・釧路湿原を守るのに作った横堤が原因で、湿原の水位が上がり、（横堤の上流側で）サケの捕獲ができなくなった。釧路湿原に入った水が出づらくなっていることが標茶町へも影響しているのでは無いか。

【委員長】

・釧路湿原は釧路市街地の防災に寄与しているが、漁業面への影響はあると思う。ただ、横堤は、標茶町の水位上昇には影響していないと思われる。標茶町への影響はそれより上流の水の出方の影響が大きいのではないか。

【事務局】

・標茶町と横堤の河床高は、標高差が 10m 程度はあり、釧路湿原の水位上昇が標茶町に影響することはないと考えている。ただ、今後気候変動の影響で雨が増えてくることを踏まえ、標茶町の治水安全度を高めていきたいと考えている。

【事務局】

・これまで、治水対策、まちづくり、湿原保全をバランスとりながらやってきたが、いろいろな人から、以前より流れづらくなったという相談も受けている。そういった声はきちんと聴き、現地を見て何が原因か把握し、河川事務所としてもやれることは対応したい。

【委員】

・サケの遡上に関しては非常に順調である。ベニザケやアメマスも遡上している。漁業者としても現在の自然環境はよいと思っている。ただ、今までにない洪水が出た場合、農家の人が苦労するし、畑に置いた糞尿が洪水で出てくるような悪循環も避けたい。自然環境が良くなれば、魚が遡上し鳥などもくる。そうした環境を維持していくために、漁業者も努力はするし、関係者も協力してほしい。

【委員長】

・今回の河川整備計画にも取り込んでいる流域治水の考え方では、河川に出てくる水の量をいかに軽減するか、河川の背後にいる方々が努力され、河川に出にくいように、また地面に浸透しやすいように工夫してもらえると洪水は減っていくので、流域治水という考え方を広く地域の皆さんにもご理解をいただきたい。

【委員】

・酪農家としては、近年の雨や雪解け水などが河川に流入しないよう、対策をしている。標茶町は１級河川を抱えており、そこに迷惑がかからないよう、一緒に治水対策を進めていきたい。

【委員】

・屈斜路湖の水質に関心があったが、北海道総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所等に状況を確認されており、今回の説明で納得した。イトウの保護対策に取り組んでいるが、釧路川にとっても源流である屈斜路湖の環境が大事であるため、今後も関係機関と連携してデータを注視してほしい。屈斜路湖はまた酸性化するおそれがあると思っていたが、その心配は今のところなさそうである。

【委員】

・原案 P35～37 について、和名・亜種名・通称名が混在している。トミヨはトミヨ属淡水型、ミンクはアメリカミンクである。ベニザケ（ヒメマス）は外来種という扱いも考えられる。引用元によると思うが検討してほしい。
・原案 P45 の釧路湿原の形成は、比較的新しい研究では 1000 年程度の違いが生じているので記載について検討してほしい。
・原案 P101 で、釧路湿原のカーボンニュートラルの機能として、二酸化炭素の吸収に加え、蓄積あるいは貯留についても記載してほしい。グリーンインフラは釧路湿原や屈斜路湖だけではなく、身近な公園などについても記載してほしい。また、28 行目に保全とあるが、保全・創出としてはどうか。

【事務局】
・ご指摘の点を踏まえて検討する。

【委員】
・気候変動によって浸水深が変化するというのはアンサンブルデータを使って算出できると思うが、被害額の積み上げ方法についても参考に教えてほしい。

【事務局】
・メッシュデータや想定浸水深などから算定しているが、詳細は次回の委員会で説明させていただきたい。